



展示実習

化粧品 OEM・ODM 会社のアサヌマコーポレーション株式会社と協働し、廃棄バルク（廃棄される化粧品の中身）を日本画の顔料として活用したプロジェクトです。新たな顔料として「コスメ顔料」と呼称を改め、有志の学生が作品を制作し、国立市内のギャラリーで展示を行いました。

伝統的な日本画材と異なる新しい画材に触れ、別の素材と混ぜ合わせることで細やかな風合いを出したり、ほぼコスメ顔料のみを使用した作品を制作したりなど、一人ひとりが検証を行い、廃棄物の活用に挑戦しました。それぞれの作品の表現方法の違いにも注目しながら鑑賞してみてください。

- 素材の提案
- 素材研究と作品制作
- 制作や展示を通して、素材と表現の幅の広がりを実感する



会場風景『〈RE MAKE-MAKE UP〉アサヌマコーポレーション×武蔵野美術大学日本画学科』展（会場：コート・ギャラリー国立、会期：2023年7月27日～8月1日）



コスメ顔料と日本画画材の混合利用による制作風景。（学部3年 赤星さんの作業風景）手に持っている絵皿がコスメ顔料を溶いた物。



混合利用例。寒色系の水干絵具の地の上から赤色のコスメ顔料を塗り重ねている。不透明なコスメ顔料の性質を利用して発色を保ちながら塗り重ねることを実現している。

（青田 有さんの作品部分拡大）

連携先

アサヌマコーポレーション株式会社

実施期間

2023年4月～8月

担当教員

岩田壮平

川名晴郎

日下部亜留斗（日本画）

参加学生の学科

日本画学科

参加学生人数

12人